

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)
分担研究報告書

「地域緩和ケアネットワークシステムに関する研究」

研究分担者

杉下 明隆 名古屋大学医学部附属病院 先端医療開発部先端医療・臨床研究センター 病院助教 (システム情報室長)
下山 理史 愛知県がんセンター 緩和ケア部 部長

研究要旨 本研究の目的は、患者家族からアクセス可能なオンライン緩和ケア相談・検索システムを実装すべく、既存の地域ネットワークシステムとリンク可能な、緩和ケア・アンケートシステムを構築することである。これに基づき令和 2 年度から構築したデータベース並びにシステムを活用し、①実際の緩和ケアリソースをマッピングし患者に配信 (Push 型) する仕組みの構築、②地域に暮らす患者家族及び医療介護福祉関係者がリソース情報を参照できる Web サイトの構築、③地域緩和ケアネットワークと連携する既存の地域ネットワークとの接続を行った。

結果、この①～③による運用環境が整い、目的を達成する地域緩和ケアネットワークシステムが完成した。

A. 研究目的

がん医療において、病院でのがん治療から在宅医療への移行は多くの場合必須事項となる。しかし、実際には積極的治療が終了した時点で慌てて在宅医療ケアに関する情報を探し、移行するという状況が多く見受けられていることは周知の事実である。本研究では、がんに関してより質の高い在宅医療が提供できるシステムを構築すべく、地域における受け入れ態勢に関する実態把握、情報共有、患者側からも医療者側からも継続的に活用可能な情報共有方法をネットワーク上に構築することを目的とした。

B. 研究方法

1) 方法

本研究は、上記目的を達成するために、R2年度に構築したネットワークの土台を使用し、同時に集約した既存の地域緩和ケアリソースを患者にPush型に配信する仕組みと、そのリソースをネットワーク上に掲載するといった方法をとることとした。

2) システム構築期間

令和5年3月まで

3) システム利用対象者

地域に暮らす患者家族及び医療介護福祉関係者

4) システム内容

- ① 緩和ケアリソースをマッピングし患者にPush型配信を行うシステム
- ② リソース情報を参照できる Web サイト

(倫理的配慮)

最終的にはシステム内に個人情報等が掲載される可能性はあるが、システム構築の段階では配慮できるような枠組みでシステムを作ることとした。

実際の運用の際には、各参加自治体がすでに作成している同意説明文書等を使用し、患者家族と医療介護福祉関係者とが協働して本システムへの参加の意思決定を行うこと、システムの情報漏洩などのリスクに関しては、サーバー管理上の問題としてとらえ、倫理的な配慮を担保することとしている。

C. 研究結果

- ① 実際の緩和ケアリソースをマッピングし患者に配信 (Push 型) する仕組みの構築をした。
- ② 地域に暮らす患者家族及び医療介護福祉関係者がリソース情報を参照できる Web サイトを構築し、公開した。(<https://pall-care.nucamcr.org>)
- ③ 令和 4 年度には、本地域緩和ケアネットワークシステムと、新たに 5 自治体の地域 ICT ネットワークとオンラインで接続し、計 16 市町村の在宅医療に関わる施設・専門種と連携できる体制が構築できた。

<アクセス可能な地域一覧>

- (1) 瀬戸旭もーやっこネットワーク (瀬戸市・尾張旭市)
- (2) こまきつながるくん連絡帳 (小牧市)
- (3) つながろまい津島 (津島市)
- (4) つながろまい愛西 (愛西市)
- (5) きんちゃん電子@連絡帳 (弥富市)
- (6) つながろまい“あま” (あま市)
- (7) つながろまい大治 (大治町)
- (8) つながろまい蟹江 (蟹江町)

- (9) つながろまい飛島（飛島村）
- (10) いきいき笑顔ネットワーク（豊明市）
- (11) かすがいねっと連絡帳（春日井市）
- (12) サルビー見守りネット（安城市）
- (13) 豊田みよしケアネット（豊田市・みよし市）
- (14) だし丸くんネット（半田市）

D. 考察

なし

E. 結論

なし

F. 研究発表

なし

- 1. 論文発表
なし
- 2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

- 1. 特許取得
なし
- 2. 実用新案登録
なし
- 3. その他
なし